

第2回若手消防団員交流会

【オンライン(Zoom)開催】

令和4年2月5日(土)13:00~15:00

次 第

- 1 開 会 13時00分

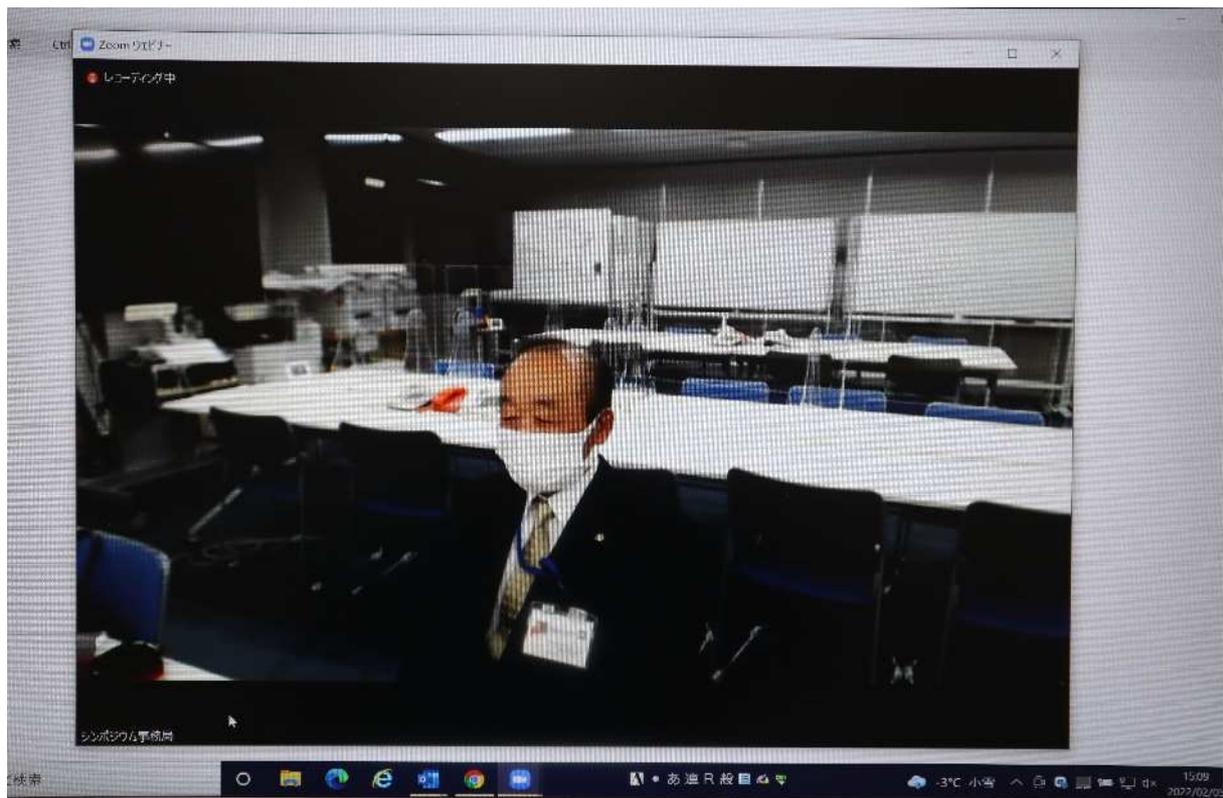
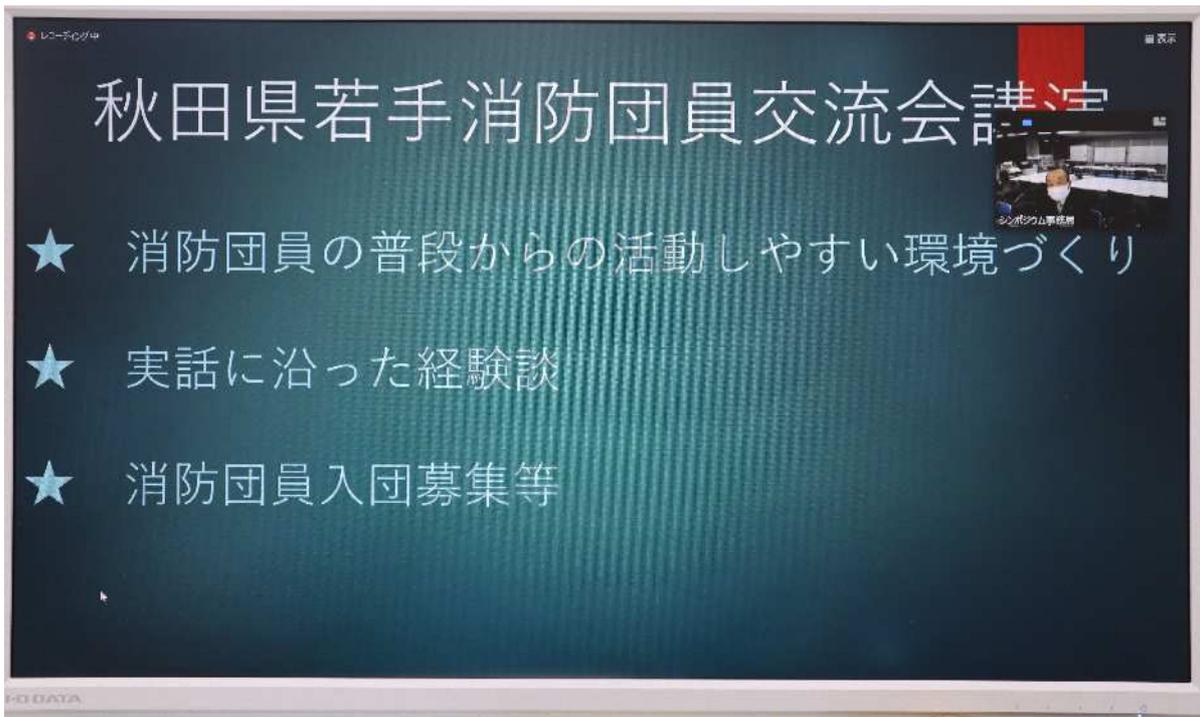
- 2 開会の挨拶
若手消防団員活性化推進チームリーダー 板橋 知也

- 3 講演 13時10分
 - ★消防団員の普段からの活動しやすい環境づくり
 - ★実話に沿った経験談
 - ★消防団員入団募集等講師 元横浜市消防局総務部消防団課／保土ヶ谷消防団本部アドバイザー
丸 山 正 美 氏

- 4 質疑応答

- 5 閉会の挨拶
若手消防団員活性化推進チームサブリーダー 佐々木 和寛

- 6 閉 会 15時00分



第2回若手消防団員交流会講演【概要】

講師

元横浜市消防局総務部消防団課／保土ヶ谷消防団本部アドバイザー 丸山 正美氏

【講師紹介】

- ・横浜市消防局 47 年勤務、警防部救助課と本部特別救助隊[通称・特消]勤務
- ・全国救助大会陸上の部に優勝3回
- ・ヘリコプター導入に充て航空救助員訓練出向
- ・各米軍基地消防隊精鋭部隊員の救助訓練指導出向
- ・皇太子殿下、鳴海心頭に来場日本初の国際救助隊海上訓練に出向
- ・日本初のエルサルバドル国際援助隊派遣準備出向
- ・横須賀海上自衛隊水中処分隊指導者教育出向「潜水技術向上」
- ・若手救助隊員の潜水訓練育成指導と救助隊員が保持する基礎的諸能力育成指導
- ・帆船海王丸最終航海実習船遠洋航海海外研修出向

・平成2年から消防団員に救助を指導する

消防団員の入団促進について横浜初100パーセント達成

目標～「カッコイイ消防団員として明るく楽しく元気にさせること」

★消防団員の普段からの活動しやすい環境づくり

①消防団活動体制の充実・強化

◇消防団員の理解を深めるため、あらゆる広報媒体を活用し PR を展開します。

〈理解を深める〉

家族の理解

職場の理解

〈PR〉

消防団、何やってんの？・・・組織法に沿って活動している

費用弁償をもらえる人

◇創意工夫を凝らした団員募集で新たな人材確保と組織の活性化を図ります。

◇消防団活動に不可欠な器具置場、ポンプ資機材積載車、可搬式小型動力ポンプを計画的に更新、維持管理を徹底します。

◇装備・資機材の維持管理を徹底し取扱習熟に努めます。

◇災害現場での消防署・消防団の連携を強固にし、災害対応力と安全管理体制の強化を図ります。

②教育訓練等の充実

- ◇自然災害に備えるため、団本部・分団本部運営訓練の情報伝達訓練を実施します。
- ◇救助資機材等の基礎的諸能力確認による団員個人の知識技術向上を図ります。
 - ・エンジンカッター、チェーンソー等資機材に触れる。実際に持ってもらう。
 - ・資機材の維持管理を徹底し取扱講習・チェーンソー・メンテナンス講習「部長級」。
部長は知らないといけない。部長から班長へ伝達する。
 - ・個人の技量を生かす。
- オートバイ(モトクロス・マウンテンバイク)、無線、PC、スマホ、救急、潜水技術
- ◇若手団員の知識・技術を向上し、組織力の底上げを図ります。
- ◇訓練時に指導的な立場を担う訓練指導者を育成し、団員間で人材育成ができる体制を構築します。
- ◇実践的な集合訓練を通じ、災害対応力や安全管理体制の強化を図ります。
- ◇あらゆる訓練を通じて、職責に応じた指揮・指導が行えるよう指導的な立場の団員を育成します。
 - ・指導者を取得した団員のヘルメットにはシールが貼られる。
「訓練指導者章」「応急手当指導員」「機関員」「警防」



チェーンソー・メンテナンス講習 「部長階級」



女性消防団員による救助救出訓練



消防団保安帽「ヘルメット」右側：応急手当指導員・機関員・警防 左側：訓練指導者章



③教育研修等の充実

◇職責の自覚、任務遂行に必要な知識及び技術を習得するため、新入団員研修を実施します。また、未受講者に対して、分団班で基礎教育を実施します。

- ・新入団員研修に子どもも一緒に連れて来れる環境。
- ・保育士の資格を持っている団員が子どもたちを遊ばせる。

◇若手団員の育成研修を通じて、組織の活性化を図ります。

◇応急手当の知識・技術向上のため上級救命講習・応急救護研修会を実施します。

◇地域住民に対する各種救命講習会を通して、応急手当に関する知識と技術の普及に努めると共に防災指導力の向上を図ります。

・防災指導は、年間 200 件に及び、現在は真夏と真冬は消防職員が実施している。

◇分団を超えた交流により、団員間の親睦を深めるとともに、研修を通じて防災知識の向上を図るため、防災視察研修会を実施します。

◇各種研修により、階級や役職に応じた専門的な知識・技術を身につけさせ、団員の能力向上とキャリア形成支援を行います。

④消防署と消防団の連携強化

◇災害現場での消防団活動支援体制の構築により、署団の連携を強化します。

◇消防署・消防出張所との連携強化により顔の見える関係を構築します。

・両輪の輪

・ホース延長要領の訓練

横浜市の場合は、災害現場では先着の消防隊からホースを繋ぐ方が早い場合が多い。消防団の負担軽減を考慮して訓練を行っている。

訓練は 30 分

両番(消防署の班)で行う

◇消防出張所と連携した基礎訓練や想定訓練により災害対応力を強化します。

・ひとりで消火栓を開け、ホース 3 本を結合してみる。

・2 人だともっとスムーズに出来る。

◇消防署・消防出張所と連携し、自然災害・都市災害・緊急事態応急活動・NBC テロ災害・武力攻撃災害の本部運営訓練を強化します。

◇消防署・消防出張所と連携し、実践的な集合訓練を実施し、更なる連携強化を推進します。

◇予防課と連携し、地域の防災訓練支援を通じて、地域防災力の向上に努めます。

⑤活性化事業(各委員会の充実)

◇各委員会の活動を通じて、消防団員としての知識・技術の向上を図るとともに、指導的な立場の団員を育成します。また、全団員が誇りをもって活動できる環境づくりも推進します。

【救命委員会の充実】

応急手当指導員が中心となり、応急救護研修会・上級救命講習の開始及び支援、応急手当指導員の養成等を実施し、応急救護活動の充実を図ります。

【広報委員会の充実】

防災視察研修等により各団員の満足度を向上させるとともに、多角的な面から広報を実施し、魅力ある消防団を PR することにより新入団員の入団促進を図ります。

【訓練委員会の充実】

訓練のあり方、進め方、内容等について、意見・要望を取り入れながら幅広く検討を行い、消防団全体の訓練に反映させ、災害対応力の向上を図ります。

【被服装備委員会の充実】

分団の枠を超えて、消防団一丸となって団員の被服・装備の管理運用を継続して実施し、団員の活動環境を改善させるとともに団員のモチベーションアップを図ります。

★実話に沿った経験談

◇消防団員等公務災害補償について

◇安全管理の徹底について

- ・法被で消火活動等をしている映像を見るが安全ではない。
- ・自分の身は自分で守る。

ケガ人を救護する際は感染防止のできる服を着用する。

資機材を使用した救助訓練をする際は、編み上げ靴、肘、膝のプロテクターを装着する等。

・消防団災害・訓練等の服装

活動服・感染防止衣・水難救助救命胴衣・防火衣・肘膝プロテクター・編み上げ靴



機動性の高い
防火衣着
装



◇消防団員等福祉共済について

◇やる気を起こす訓練・研修の充実について

①ムリをさせない。

②時間厳守(長くやらない。訓練は1時間。)

平日は 19:00~20:00

休日は早朝か午前中→家族との時間を確保する。

③理解が大事 訓練礼式など意味を必ず説明する。

④情報を提供する ロープ結索「なぜ?どうして?この結び方なのか」

⑤「普段の活動+α」の活動

「年末年始の夜警訓練+車検・緊急無線・ポンプ車のエンジンをかける」

新しいことの吸収は「ためになる」「役に立つ」という認識に繋がる。

⑥シミュレーションは毎日(危険区域を知る)

災害時の自宅から器具置き場へ向かうシミュレーション

会社から自宅までのシミュレーション

訓練開始前の安全管理の徹底指示



国民保護法訓練 「訓練指導者育成訓練」



火災現場・消防団による照明活動 投光器・バルーン照明活動



◇消防団協力事業所団員の活動について

- ・自動車学校
自動車事故訓練の協力。夜間を想定して日中実施する。
衝突体験等実施。
- ・神社(巫女)
救命講習
- ・月1で事業所へ署員と団員が指導に行く。

★消防団員入団募集等

◇カッコイイ消防団

◇加入するタイミングが大切である

◇地元で訓練等で頑張っている写真を、各種催し会場でパネル及び映像を展示する

- ・リーフレットではなく、手作りのパネルが効果がある。
- ・地域内で展示する。(横浜駅で配布しても他人事で終わってしまう)
- ・「〇〇ちゃんのお父さんが写っている。〇〇君のお母さんが写っている。」が効果的。
- ・バルーンアートやホースで作成したコースターを配布する募集活動もあった。

◇器具置場(詰所)シャッターに皆が目にするような明るくやさしい印象に残る絵画を掲示する



第2回「若手消防団員交流会」アンケート

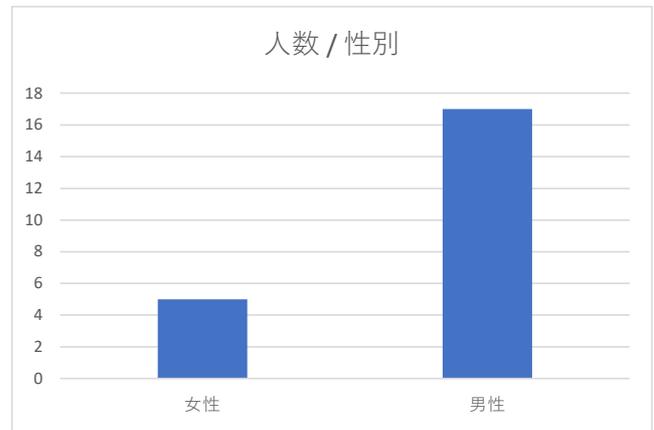
設問1

年齢	人数 / 年齢
20代	5
30代	13
40代	4



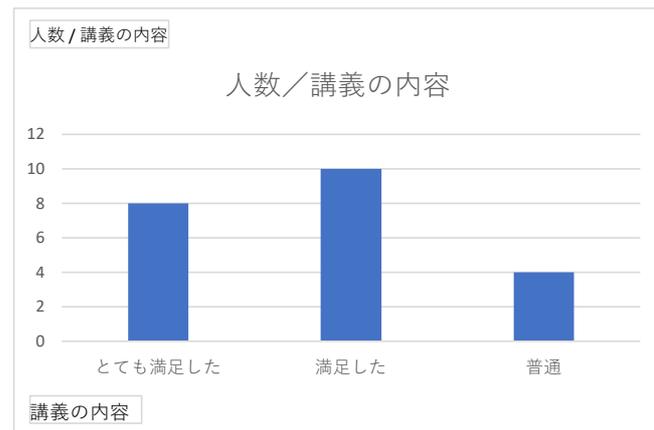
設問2

性別	人数 / 性別
女性	5
男性	17



設問3

講義の内容	人数 / 講義の内容
とても満足した	8
満足した	10
普通	4



設問4 今回の講義について

- ◆他地区で行っている消防団活動について様々な方法があることを知りました。とても良い学びとなりました。
- ◆実際の消防団員募集活動状況、西消防団の活動状況を見て学ぶ事ができ、大変有意義な時間になりました。
私も首都圏で消防団活動をして秋田にUターンし地元消防団で活動していますが、最初は消防団活動の無さに唖然とした事もありました。今少しづつではありますが、毎月の巡回等活動を増やしていくように幹部と共にやっております。
- ◆先進的な活動事例を伺うことができた。
- ◆自分では考えつかないようなアイデアに触れることができた。
- ◆他県の消防団の活動内容や、活動推進方法について学べたことや、団員の士気向上のための施策を知れたため。
- ◆女性消防団員が水難事故に備えた訓練や車の事故など実際にあるかもしれないことを想定して訓練されていることを知ることができ、また消防団だよりという地域の方に伝える手段を知ることができた。
- ◆都会の消防団の活動をたくさん教えてもらい、私どもにもできることがないかとでも考えさせられました。
- ◆普段聞けないような内容だった。
- ◆地元消防団との違いや、年間事業等を把握できて参考になりました。
- ◆実際に参考にできる内容がたくさんあってもっとお話を聞きたいと思いました。
- ◆自分の住んでいる地域ではあまり馴染みのない災害の教育訓練を行なっている様子を知ることができました。しかし全国どこでも起こり得ることであり、改めて災害について考えるきっかけとなる貴重なお話を聞く機会となりました。また、消防団個人のもつ特技などを生かすことはとても良いと思ったので生かしていきたいです。
- ◆新たな団員を増やすための創意工夫を実例を交えて話していただき、参考になった。
- ◆消防団の活動の内容すら理解していない私にはレベルの高い講義だった。
- ◆県外、関東の消防団がどんな感じなのかを知る事ができた。
- ◆入団促進活動で勉強となる内容がありました。柔軟で短時間集中型の訓練体制や、家族を巻き込んだイベントなども勉強になりました。
- ◆色々な話を聞いて、これからの消防活動に活かせると思った
- ◆制度の整備や将来的な消防団の理想形については、とても分かりやすかったです。実用のため、もう一步踏み込んだ話を聞いてみたかったです。
- ◆団員のやる気につながる内容でとても良かった。
- ◆都会と田舎の違いを感じると共に、熱量の違いも感じた。

◆実際に取り組まれている内容を紹介いただき、大変参考になったとともに、自分たちは団員不足等を嘆いているものの、実際に何らかの行動に移せていなかったと反省した。

消防本部等への要望は要望として、現状で自分たちで何が出来るか、何だったら出来るかを考えて、まずは行動に移していきたいと感じた。

設問5 今後、受けてみたいテーマや講義内容、具体的な講師名がありましたらご記入ください。

◆消防団員が増えている団の活動事例

◆消防団員の充足率の高い地方の方の実際の募集活動を見てみたい。また、広報活動等秋田県全体で不得意な部分を改善していく様な講演会があっても良いのではないのでしょうか。

◆過疎地域の消防団の成功例。

◆同様の講義を今後も受講してみたい。

◆今度はそれこそ若手消防団員が集まって実戦訓練的なことをやってみたいです。うちの団だけでは予算がなさそうなので。

◆若手消防団員の加入促進方法。

◆今回は都会の消防団の事例を聞きました。次回は実際に過疎地域でほとんど若い人自体が居住していない状況下で精力的に活動している内容も聞きたいです。

◆他県での消防団員加入の取り組み、諸外国でも消防団のような活動はあるのか？

◆活動経験の無い人にも理解できる基礎的な講義

◆消防団の活動・イベント参加等の話を聞いてみたい。出初め式などの年間行事くらいしか知らないため。

◆“消防団員と家族” 家族から見た消防団員に注目してはどうでしょうか。「団員の活動には家族の理解が不可欠」という講義内容からの提案です。

◆丸山講師の実話と経験をもう少し聞きたいと思った。

◆「実際の災害等出動した経験から、普段の装備や活動訓練を見直した」という例があれば、秋田県に限らず聴いてみたいです。

◆地域で行えるイベントの例を具体的に聴きたい。

◆今回のような実際に各地で取り組んでいる事例、これによる効果などを紹介いただけると、今後の取組の参考にできる。

◆時代や地域柄に合わせた消防団の在り方について。

設問6 その他の意見・感想

- ◆緊張感のある講習とするために全員顔出しでの参加が良いと思います。
- ◆貴重な講演であった。行政の消防団担当並びにその部課職員も今後の参集人員に加えることで、喫緊の課題である団員不足に対する対応策が迅速に図られるのではないかと考える。

- ◆本日は参加させていただきありがとうございました。消防団員募集活動は、市町村・地域単位では限界を迎えているのではないかと思います。消防団員の募集及び待遇改善、活動内容の充実、装備の充実が秋田県全体の問題とし、県単位で実施するべきと思っております。この活性化委員会をもっと若手団員に周知されるようにして頂きたいです！

- ◆講義の内容を当分団で即座に活用できることは少ないかもしれませんが、団員の確保などに向けて参考にできる部分は積極的に参考にし、活発な団活動に繋げていきたいと思っております。本日はありがとうございました。
- ◆本日は貴重なお話をありがとうございました。
次回もあると思っておりますので、その際はまたよろしく願います。

- ◆他県の消防団の活動内容を知りたい。
また、情報交換を行いたい。

- ◆今回の講義内容を分団や幹部に配布してはどうでしょうか。今回、オンラインという形で研修を受講できました。内容に関しては丸山先生もお話していたように幹部の人にも見てもらい理解してもらうような内容にもなっていたため若手といわず広く見てもらえたらいいと思っております。

- ◆消防団の活動での様々な技術が習得できる事例を紹介して下さったが、他にも最新の技術を学べる機会があれば、加入する団員も増えるかもしれないと感じた。

- ◆コロナの影響のため、オンラインだったので、とても残念に思います。とても勉強になりました。

講師からのメッセージ

【交流会前の打合せより】

本来、消防団事務担当者教育（横浜市の消防団事務担当は消防職員です）をしないと今の現状は消防団員が自ら活動ができません。

消防団事務担当者は、短期間で部署が変わりますよね。

消防団員の皆さんは、職員の顔を覚えたと思ったら、新しい職員が担当です。

そこで、消防団と消防署が管轄区域内で常に連携訓練（両番で）を行うことですね。

災害現場では、両輪の輪でお互いに協力し合うと思います。

今、メガ地震の減災に対応するために一人で対応できる能力を持つことですね。

二人になるとさらに発揮できる行動実現を目指す、応用訓練が大事ですね。

【交流会後のアドバイス等】

横浜市消防団では

- ①横浜市消防団員の手引き
- ②消防団員活動マニュアル
- ③救助資機材指導者用マニュアル
- ④消防団員の基礎的諸能力の確認に関するマニュアル

を各団員に配布しています。

作成に協力したのが、丸山他各消防署の消防団係が調整検討し、消防局総務部消防団課で作成しました。

その前に、平成 22 年頃から救助・救出技術を西消防団に積極的に指導し、指導者の育成を図り、その活動を数多くの広報紙に掲載しましたら、総務省から問い合わせが来た次第です。

団員の方のモチベーションを徐々に上げて、今日に至ったと思います。

まず最初は、消防職員の消防団事務担当者教育です。常に、消防団員が不利益にならないようにいつも心がけが大切ですね。

団員さんから連絡が入ったら、30 分以内に必ず連絡する習慣をつけること。

回答できなくても必ず連絡することですね。消防団の方は、消防署に電話することでも勇気が必要だと思います。

事務担当者は、オールマイティでなければいけませんね。

あと、消防操法しか訓練をされていないとお聞きしましたが、これは、あくまで演技披露であり災害時にはあまりいいとは思いませんね。

勿論、地域みんなの前で消防団の操法訓練披露する姿は素晴らしいと思います。

横浜市消防団女性団員は「阪神淡路大地震」の後に誕生しました。

最初は、何をしたらいいかわからない1年でした。まずは、地域防災指導に参加、初期消火・応急手当とホース延長要領、放水訓練から入りました。その時びっくりしたのは、普段参加されることのない男性団員が負けてしまいそうだと参加しましたね。

また、男女混合で操法大会にも参加しました。

つい最近、消防大学校において消防署員・団長課程2回、私の部下であった、堀下清美講師が女性消防団員のあり方について講義を行いました。私は、オブザーバー参加でしたが、皆さん真剣でしたね。秋田県からも副団長が受講してましたね。

消防協会は、団長の皆さんとこれからの未来の消防団員育成を意見検討したらどうでしょう。

今は、秋田県・神奈川県大規模災害等が発生しない状況ですが、いざという時に他の応援活動をするかもしれませんね。

歴史ある操法訓練もいいですが、選手だけでなく一人一人が可搬式小型動力ポンプ取り扱い方をマスターし、いつでも、操作できること、多種多様な訓練と負傷者の応急処置、トリアージ伝達等指導的な消防団員を希望しますね。

若手消防団員が今回のパワーポイントを見てひとりでも減災に対する気持ちを思ったら幸いです。

例えば、平日の午後2時頃に震度6強の地震が発生したことを想定しながら帰宅困難・自宅の近くにたまたまいたら、どのように活動できるかシュミレーションを持つ。

個人的に皆さん、職業が多種多様ですのでサラリーマン方が多い中、平日を想定した訓練・研修会内容を各団長に災害対応を検討してもらおうよう努力しましょうね。

これからの秋田消防団の活性化に期待申し上げます。

丸山講師がアドバイザーに就任されている「保土ヶ谷消防団3つのスローガン」

- 1 【災害対応力の高い消防団】
- 2 【愛される消防団】
- 3 【カッコイイ消防団】

令和3年度に6年連続充足率100%を達成（定員400名）

～保土ヶ谷消防団ホームページより～